

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771100611		
法人名	社会福祉法人 サマリヤ		
事業所名	サマリヤ大川グループホーム		
所在地	香川県さぬき市大川町田面1198		
自己評価作成日	平成23年10月4日	評価結果市町受理日	平成22年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771100611&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771100611&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年11月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、一般の木造住宅を一部改修して使用し、広い庭には、土が残っていて、四季折々の花が咲き、裏庭には畑もあり、新しく入居された方も非常に親しみやすく、自分の家のように溶け込むことができています。サービスにおいては、歩行困難になられた利用者の方も、日中はリビングに出てこられ、本人に合ったリハビリテーション、レクリエーション等が行えるよう、職員一同心がけています。利用者一人ひとりの意思を尊重した対応を行い、安心と安全を心がけた介護支援を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

香川県東部の道沿いに位置する、日本家屋を転用した事業所である。一人ひとりの居室に同一のものがなく、利用者職員で工夫された居室である。法人理念の「サマリヤ人のおこない」と介護の原点「愛・忍耐・技術」の理念が、利用者一人ひとりの意思を尊重し、介護を提供している事業所である。また、管理者は地域密着型サービスについて認識しており、日々、地域のために事業所が何をすべきか切磋琢磨している状況である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛、忍耐、技術」の理念に基づき、管理者と職員は日々実践しています。	サマリヤ法人理念である「愛、自分を愛するように隣人を愛せよ。忍耐、何事であろうとも見守り続けよ。技術、知識、経験、訓練によりの確な介護技術に努めよ。」を念頭に置き、管理者と職員は日々実践しているが、理念に向けた、具体的な共有方法と実践が見えづらい。また、法人理念に向けた、地域密着型サービスとする事業所としての理念と実践が見えづらい。	法人理念と連動した事業所の運営理念を明確にあげ、職員間で共有し、それに伴う、具体的な運営方針をあげる。運営方針に対して、年度目標(重要課題)を立て、職員間で共有し、計画、実践、評価、修正をするといった、P(計画)D(実施)C(評価)A(計画改善)サイクルに準じて、実践していくことが望ましい。法人理念⇔事業所理念⇔事業所方針⇔年度目標(重要課題)と連動した実践をしてもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は地域の清掃作業等に参加し、また、利用者と共に自治会の花見、ふれあいサロン等に参加し、交流を行っています。地域の秋祭りには、獅子舞や、やっこさんが来られます。	職員は、地域の草刈りや清掃作業等に参加している。また、利用者と共に、年に1度の自治会の花見、3か月1回、ふれあいサロン等と交流をしている。地域の秋祭りには、獅子舞や、やっこさんが事業所に来られている。近年、車椅子の利用者が多く、地域から案内があれば、積極的に参加している。今後、若い人との交流を、関係機関と連携をとり、地域とのつながりとして開拓したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設の支援状況を、本部で制作している広報誌や、ホームページに掲載してもらい、また、運営推進会議の場で、出席して下さっている各委員の方々に伝達し、理解を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、定期的に運営推進会議を開催し、出席された地域の方々に、議題の内容について報告、意見交換を行い、サービスの向上に役立っています。	2か月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。参加者として、婦人会会長・自治会会長・福祉委員・利用者家族・介護保険課等と地域の方々に、議題(事業所紹介等)の内容について、報告、意見交換をし、事業所の介護サービスの向上に役立っている。ただ管理者は、運営推進会議の運営や、どのように会が発展すればいいか自問自答している。	例えば、グループホームは「場」を提供する考え方で、地域ぐるみで、地域のニーズとして、防災避難訓練のあり方を検討したりする等、現状の会議内容を発展させ、生活圏ごと、地域密着サービスとして、小地域コミュニティの課題や地域の防災のあり方を議論、実践する場として提供をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者からは、最新の情報がファクス、メール、電話等で連絡があり、また、運営推進会議において情報交換を行い、協力関係を築いています。	さぬき市の介護保険課からは、最新の情報がファクス、メール、電話等で連絡がある。また、支所へ行き、情報を取り寄せている。運営推進会議やそれ以外においても情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が正しく理解し、行動障害のある利用者に対しても、拘束をしないケアをしています。	身体拘束廃止に対して、管理者を含む全ての職員が正しく理解している。事業所は鍵をかけない工夫をしており、帰宅願望の強い利用者に対しては、本人の言うことを否定せず、一緒に寄り添い、家族に会いたい場合は、自宅の方へ職員が連れて帰る方法をとっている。身体拘束廃止に係わる書式は掲示されていないが、ファイルに整理されている。また、身体拘束廃止委員会、身体拘束廃止マニュアル、身体拘束廃止に伴う研修を、定期的に企画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を持っています。管理者や職員は、虐待防止の徹底に、日々努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を得ています。毎月行われる担当者会議の場で話し合い、必要が発生すれば、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に本人、家族等に契約書の内容を分かりやすく明示と説明をし、同意を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族等からの不満や苦情を知るようにしています。また、利用者の家族の方に、運営推進会議に出席していただき、意見を聞く機会を設けています。	利用者や家族等からの意見や要望を知るように、玄関に意見箱を設置し、契約書にも明記している。また、家族の方に、運営推進会議に出席していただき、意見を聞く機会を設けている。利用者・家族の意向を改善できるように、常に法人代表に報告できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、月1回定期的に担当者会議を開催し、管理者はじめ職員全員出席のもと、利用者に関わる問題点や改善策を話し合い、サービスの向上に反映しています。	月に1回の担当者会議、2か月に1回の全体会議を開催し、法人代表・管理者・職員出席のもと、利用者に関わる問題点や改善策を話し合い、サービスの向上に反映している。ただ、会議録に、職員全員の確認印がなかった。	管理者は職員意見の反映も、年度目標（重要課題・研修計画）を立案して、P(計画)D(実施)C(評価)A(計画改善)サイクルに準じて、意見の反映をさせてもらいたい。また、課題(身体拘束廃止・ヒヤリハット・感染対策等)に応じた実践と報告のしくみを加味した組織図を作成してもらいたい。そして、会議内容の全員周知のためにも確認印の周知徹底をお願いしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月の担当者会議の折、職員の意見を充分に聞き、各自が向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、全ての職員が働きながら技術や知識を習得できるよう、事業所内外の研修を受ける機会を確保し、職員の育成に役立てています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同市内の同業3事業者の計画作成担当者等と、定期的に意見交換の場を持ち、それぞれの悩みや問題点、困難な事例等の解決策を話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状況を把握しながら、困っていること、不安なこと等、話をよく聴くように努め、安心を確保しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の方の不安や要望等については、十分にお聴きするように努め、その件に関して詳しく説明をし、安心していただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に対してまず何が必要か、家族等からの意見を参考にし、できる限り最大限のサービスが行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、日常生活のなかで、自分でできることは自分で行い、できない部分を職員に手伝ってもらいながら共に過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が訪問された折には、本人を交えて現在の状況等を報告し、必要な支援が発生すれば、家族の方からも強力をいただき、一緒に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住まわれていた地域の行事等に出かけて行き、馴染みの人達とふれあえるよう支援しています。また、家族に年賀状を、毎年出されています。	利用者のアセスメントを軸に、以前生活していた地域の行事等に、職員と一緒に参加している。遠い住所の利用者に対しても、馴染みの人達とふれあえるよう検討している。また、法人内のデイサービスの利用者や、グループでクリスマス会を開催したり、一人ひとりの個別支援の中で、関係継続を考えている。家族には定期的に郵便物を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングでテレビを見たり、編み物やゲーム、切絵等をされ、自由に過ごしていただき、一人ひとりが孤立しないよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、本人や家族からの申し出があれば、相談や支援に応じるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや、意向を把握するよう努めています。実現が困難な場合であっても、担当者会議等の場で意見を出し合っ、解決していくよう取り組んでいます。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。帰宅願望の強い利用者は、家に帰る場面設定をしている。一人ひとりの思いや意向については、サービス担当者会議等で協議をして、意向にそえるように支援している。利用者一人ひとりの特徴を把握し、具体的に表出できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が自分らしく暮らせるよう、入居時には本人や家族等から、家族構成、趣味や嗜好等、生活歴、これまでの暮らし方についてお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、利用者を総合的に見つめる目を養い、日々の生活の中で、本人の状況に合ったサービスを提供しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、本人の現状や家族等の要望をお聞きし、短期、長期の目標をたて、また、現状悪化時には、サービスの見直しを心がけ、本人が安心して暮らしているよう支援しています。	ケアプラン作成時は、利用者の意向や家族等の要望を聞いている。現状悪化や、サービスの見直しに注意しており、安心して暮らしていけるよう支援している。しかし、介護日誌は、排泄・水分量・食事量・夜間の様子・リハビリ体操・レクリエーション・口腔ケア・入浴と記載しやすくなっているが、介護の目標または、ケアプランの居宅サービス計画書(2)に記載されている課題がなく、ケアプランと介護日誌が連動できていない。	ケアプランの居宅サービス計画書(2)に記載されている課題を、介護日誌の目標に連動し、個別援助を明確にしていくことを期待したい。介護日誌の帳票が薄古いため、新しい介護日誌の帳票を作成し、効率のよい帳票整理をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、朝、夕の申し送り時に伝達し、日報に記録しています。身体的、精神的に変化が生じた場合は、職員間で意見交換の場を設け、結果を介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定的なサービスに捉われず、介護保険以外のサービスにも対応しています。(御先祖の墓参りや筋力拘縮予防のマッサージ、美容院へ出かけての髪カット、ホールで過ごされるとき安楽な椅子等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の花見等に参加し、地域の方々と楽しく過ごせる機会があります。また、毎月行われている外食では、近くのうどん店まで出かけています。デイサービスの行事(音楽会、クリスマス会等)にも参加されています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医院を確保しています。受診ができない場合は、往診をしていただいています。また、状況に応じて、本人や家族の希望される医療が受けられるように支援しています。	事業所として、地域のかかりつけ医院と協力体制ができています。通院できない場合は、往診できる体制がある。受診は、本人・家族の希望を、優先的に考えて対応している。内科・精神科・歯科等の体制が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職は共に協力し、利用者の日々の状況を詳しく観察し、適切な受診や看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際は、家族と相談しながら、医療機関に情報を提供し、本人が安心して治療を受けられるように支援しています。また、早期退院ができるように、病院関係者との情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医等、ケア関係者とよく話し合って支援できるよう、取り組んでいます。	重度化した場合や終末期のあり方について、家族等の意向を確認しながら、担当医と相談のうえ、対応している。法人理念の「サマリヤ人のおこない」等を含めた具体的な取り組みを検討してほしい。	重度化や終末期に向けた方針の共有を支援するために、担当医と連携を取り、家族へ事業所の支援内容を明確にする必要がある。そのためにも、事業所として、看取りの指針、マニュアル、研修体系を明確にし、同意書の準備をすることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当に関して、定期的に救命救急訓練を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動火災報知設備を設置し、定期的に避難訓練を実施しています。また、自治会の自主防災組織に加入し、地域の人々の協力を得られるよう、運営推進会議等の場で話し合っています。	自動火災報知設備、スプリンクラーを設置し、年2回、避難訓練を実施している。また、自治会の自主防災組織に加入し、運営推進会議等の場で話し合い、地域の方の協力を得られるよう体制を整えており、特に夜間の場合を検討している。地域の避難場所として当事業所がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーが保たれるように努めています。本人の現実を否定せず、一人ひとりに合った対応を行っています。	職員の工夫で、日本家屋の住宅改修がされており、トイレは、車椅子が入室できるように改善をしている。しかし、グループホームとして建設された事業所でないため、廊下からトイレに入室する際、カーテンをしているが、トイレ内が見える状況である。カーテンが小さいため、着替えをする場所から浴室がみえる。	職員一人ひとりの目線で、プライバシーが保たれる環境整備の必要性が望まれる。カーテンにマジックテープをつけたり、全身が隠せるカーテンにする等が検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断力が低下し、言葉では十分に意思表示できない利用者に対しては、職員は言葉かけの工夫をしたり、表情を注意深く観察する等を行って、本人が自己決定できるように取り組んでいます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に一日を過ごしていただいています。調理を手伝って下さる方、塗り絵や切り絵をされる方、庭に咲いている花で生け花をされる方等、その人の希望に沿えるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪にカチューシャを付ける人、毛染めを希望される人、化粧をされる人等、その人らしいおしゃれに配慮し、服装にも気配りをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体、健康面に配慮し(刻み食、お粥等)、盛り付け等も工夫し、楽しく、また美味しく、食事ができるように支援しています。利用者には、野菜の皮むき、下膳、食器洗い等を手伝っていただいています。	食事を楽しむための支援として、食事の買い物、料理、食事、配膳(野菜の皮むき、下膳、食器洗い)等と食事の一連の流れに、利用者の役割を明確にしており、また食事形態も刻み食、お粥等を考え、盛り付け等も工夫し、楽しく、美味しく、食事ができるように支援している。栄養摂取量・水分量は、一日を通して確保できるように管理できている。ただ、管理栄養士が不在なため、食事内容(カロリー・治療食等)については、不確かな部分も考えられる。	家庭的な食事を主な内容にしている。法人内に管理栄養士を配置しているので、基本となる献立表を作成してもらうなど、適時連携を取ることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やお粥等、利用者に合わせた食事を提供しています。栄養摂取量や水分量も一日を通して確保できるように努め、日中、水分が不足気味な方については、19時に健康飲料等で補っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に一回は、歯磨きが実行できるよう努めています。しっかりと歩行できる方は、何時でも自由に歯磨きをされています。毎朝のリハビリ体操時に口腔体操も含め、筋力の低下を防いでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをし、トイレ誘導を行っています。日中は8名の利用者がトイレを利用され、夜間尿意のある方には、居室のポータブルへ移動介助しています。	利用者日報で便と尿のチェック表を作成し、職員がチェックすることで、利用者一人ひとりの時間をおいて声かけをし、トイレ誘導を行っている。日中は、8名の利用者がトイレを利用し、また、夜間尿意のある方には、居室のポータブルへ移動介助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの方が、定期的なトイレ誘導により排便できています。体操、散歩等で身体を動かしていただき、自立歩行できず、水分不足気味な方には、健康飲料やゼリー等を摂取していただいて不足分を補っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日(月～土曜)14時頃より入浴していただいています。浴槽には入浴剤を入れ、よい香りがしていますので、大変リラックスされ喜ばれています。重度の方も、職員2名が介助して湯船につかっていただいています。	毎日(月～土曜)14時頃より入浴を提供しており、一人ひとりの希望に応じた入浴を提供している。身体機能の重度の利用者も、職員2名が入浴介助している。ただ着替えをする場所から浴室がみえ、カーテンをしているが小さいため、羞恥心への抵抗がある。	全身が隠せるカーテンにする等の検討が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ身体を動かしていただくよう支援し、(趣味、レクリエーション、畑作業の手伝い、台所の手伝い等)安眠できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、服薬支援を行っています。心身上に変化が見られた場合は、速やかに家族や医師に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、楽しみごと等を見出せるよう努め、生き甲斐サービスとして支援しています。(台所の手伝い、夕食時のビール等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行動障害があり、非常に帰宅願望の強い方には、家族の協力を得て、自宅へ寄せていただいています。また、「髪は馴染みの美容院へ行ってカットをしたい」と希望される利用者には、美容院の方が送迎等の協力をしてくださっています。	帰宅願望の強い利用者に対しては、家族の協力を得て、自宅へ帰る試みをしている。また、利用者の習慣や希望を尊重し、可能な限りの外出支援をしている。個別の外出支援、集団での外出支援と職員配置を留意し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの要望により、金銭管理のできる方には、小遣いを管理していただき、外出時の少しの買い物に役立っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者がいつでも使用できる場所に置いています。また、手紙等を書かれる利用者へは、プライバシーを配慮しながら絵手紙等もおすすめしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本来の日本家屋の良さを活かし、落ち着いたある家庭的な雰囲気をそのまま利用しています。	広い共用の空間が2か所(居間、食卓)と少ないが、日本家屋の良さを活かし、家庭的な雰囲気をそのまま利用している。外は、畑など季節に応じた景色となっている。利用者にとって不快や混乱をまねくような環境はなく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにテーブルや椅子を置き、自由に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や使い慣れた家具等が持ち込まれています。家族の写真を飾っている方もおられます。	日本家屋を改修してグループホームを運営しているため、一人ひとりの居室幅が全く異なり、職員が、利用者や家族と話し合い、一人ひとりの利用者の生活しやすい空間をつくっている。タンスの位置や広い居室なら利用者の意向を聞き、カーテンで間切りをしたり、畳の間に階段昇降を設置する等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の窓際に朝顔を植え、本人が眺めて楽しめるようにしています。庭に椅子を置いて、日向ぼっこができるようにしたり、洗濯物を自分で干せるように、物干しを低くしたり、居室で干せるように工夫をしています。		